

近代日本を代表する社会部記者・松崎天民（1878-1934）の著書九点と、雑誌『小天地』に掲載された作品を新たに編集し刊行。

松崎天民選集



全 10 卷 後藤正人 監修・解説

クレス出版

本選集は、松崎天民の、二〇世紀前期における社会探訪記などを復刻・解説したものである。これまで復刻できなかった作品、すなわち『人生探訪』、『社会観察 万年筆』、『恋と名と金』、『漂泊の男・流転の女』、『歓楽の底より』、『女人崇拜』、『四十男の悩み』、『記者懺悔 人間秘話』、『人間見物』などである。すべて一気呵成に通読させる面白味がある。

近代日本を代表する社会部記者・天民は、種々の雑誌に社会探訪の文章を多数残した。天民は角田浩々過客・薄田泣菫・平尾不孤編の雑誌『小天地』に自伝風の記事や社会探訪記を発表し、『大阪の木賃宿』（二巻四号、一九〇二年）では、「一方において、『貧福平均、階級打破、労働者保護、社会党組織など』を社会へ訴え、他方においては『共同長屋の設立、共同販売店の開設、貧民銀行の新設、貧民倶楽部の開始など、貧民の為に正当の保護を与へ、えることが理想である』と表白する。「天民は読者をして『生活に戦ひ敗れたる弱者』の上にも人類相愛の同情を濺がれんことを」願っていた」（後藤正人『松崎天民の半生涯と探訪記―友愛と正義の社会部記者』和泉書院二〇〇六年）。

天民は、詩人の児玉花外が編集する関西のユニテリアン協会機関紙の『評論之評論』にも作品を発表している。天民『社会主義詩集の禁止』（六五号、一九〇三年）は、児玉花外の『社会主義詩集』（同年発行予定）が詩集にして最初の頒布・発売禁止処分となったことに対して、「表現・出版・思想の自由」を抑圧した明治政府を批判するアイロニーである。また「弱者の声」（同号）では「花外の社会主義を『同情と博愛の化して再現したものである』と」観て、「現代の社会主義は、同情の念が無くては、だめであらうと思う」と述べていた。天民自身も同情・友愛を志向する社会主義の理解者であり、強い共感者であった（後藤「児玉花外『社会主義詩集』の抑圧に対する『評論之評論』の批判」『大阪民衆史研究』四六号、二〇〇〇年）。

東京朝日新聞社に移った天民は、自己の良心の命ずるまま、冤罪事件として有名な大逆事件をめぐって誰もなしえなかった詳細な足跡と探訪記事を残し、近代天皇制国家の非人間性を暴露し、石川啄木をして深い感動を与えていた（後藤『近代日本の法社会史―平和・人権・友愛』第五章『時代閉塞』の法社会史』世界思想社、二〇〇三年）。

このような天民の「友愛と正義」の良心の発言は、本選集の大正デモクラシー期の作品群ではどのような変化を見せるのか、興味津々たるものがある。庶民の状態と意識状況が活写されているが、単なる文明論でも風俗史でもない。新聞企業家や同従事者、そして読者国民へ投げかけた貴重な新聞論や、非戦論も特筆すべきものである。はたして天民は何を描きたかったのであろうか、やがて新しい選択が迫られている未来に何を投げかけているのだろうか。後進に慕われた名文を味わって頂きたい。

第1巻 『小天地』所収作品集

大阪精神病院

社会外の社会！

自分は曾て岡山に於て、石井十次氏の主宰せる孤児院を觀、又京都に於て鳥居氏の創設せし盲啞院を觀て、天涯、母の慈愛を知らぬ孤兒や、生れながらに物の色を識別すること出来ず、将天来の音を聞くを得ず、思ふ事を語り得ざる、幾多年少妙齡の男女が、嬉々として相戯れるのを目撃して、此所は社会外の社会を形造つて居る所である。不具廢疾の人や、双親の慈愛を知らぬ不幸な小兒が、寄集つて暮して居る所である。と思ふて最う涙が一杯……人知れず両の袂を絞つたことがあつた。

社会外の社会——それよりして此一語は、悲い心細い哀れな念を起さしめる。紡績工場や、監獄署や、病院や、遊廓や、人に捨られ世に捨られた人間に依つて成立て居る一種の社会程、憐れに悲く意味深きものはあるまい。就中狂人Ⅱ精神病者Ⅱ程人をして腸を断しむるものはあるまい。失恋と言ひ失敗といひ、それ等は皆常情を以て居る普通の人の煩ひで、其懊惱や苦痛が人間以上に超脱して、心機一度天涯に去つて了つたならば、恋を失へる遊子は嬉々放吟し、事業に敗れし人は哄笑乱舞、心中何の鬱も無い様であるが、これが狂人である、精神病者である。行いて夫れを訪れ其居常の有様を観察し、その原因を研究し、或は天に向つて訴へ、地に俯して哭する処を傍聴して齎し飯り以て自分で泣き、且読者に泣いて貰つたならば、不遇の病者も微笑むであらう、天涯の孤客も破顔するであらう。と八月廿七日午前

第9巻 記者懺悔 人間秘話

人間秘話

一八四

一〇四 探訪隨一

「数えて見ると、ほんとに多くの人々が、死で居るのですね。大阪の小川定明と云ふ奇人の生涯も、面白かつたさうですが、郡司重次郎と云ふ男も、最後まで残つた探訪者の一人として、忘れられない人ですな」

「あの時代から人で、今も健康で働いて居るのは、東京朝日の河野玄隆翁ぐらゐなものだらう。昔の三面の探訪と、今の社會面の外交とは、まるで世の中が變つて居るからね。この意味から云つても、河野君の健在に對しては、同業者的に祝福しても宜い位に私は思つて居るのだ」

「小川といふ人は、何んな風でした」

「さうさね、飲んだり食つたりして、遊んで居る間に材料を取る類の人で、何と云つても名探訪記者の隨一人だつたよ。今の若い外交記者達には、小川老人の爪の垢でも飲まして遣りたいと思ふのだが、世の中は變つたし、新聞の取材方法も異つたからね、もう今後、あんな奇才は出現しないよ」

第1巻 『小天地』所収作品集

●明治34年〜36年に刊行された雑誌『小天地』に掲載された天民の作品を、体験（自叙伝）、探訪記、文芸関係者の訪問記等に分類して新たに編集。

第2巻 人生探訪

●大正2年／磯部甲陽堂
倫落の男、春を追ひつゝ、カツプエー、パーとホール、山水十日の旅、秋晴十日間、銀座界限、上野浅草記、寄席印象記、東京その折々、探訪記者の印象

第3巻 社会観察 万年筆

●大正3年／磯部甲陽堂
倫落の女から来た手紙、続「倫落の女」、新聞記者ニコ〜観、新女優の運命、浪花節の盛衰、蜜カヲ列伝、現代の女学生

第4巻 恋と名と金と

●大正4年／弘学館書店
探訪ロマンズ、生活その折々、無職者の日記、中禅寺湖より

第5巻 漂泊の男・流転の女

●大正5年／弘学館書店
其の夜の気持、悩みと悶えと、不思議な来客、救れた女の群、沈み行く人々、白く塗れる墓、地獄か極楽か、大正世相私観、麦飯と味噌汁、旅から旅へと

第6巻 歓楽の底より

●大正7年／磯部甲陽堂
待月楼の一夜、心中未遂の女、山間の通信員、彼の男の行方、故郷より他郷、或る夜の悲哀、亡友の遺骨と、男の死ぬる時、大正お勝より、湯女と若僧と

第7巻 女人崇拜

●大正9年／精禾堂
十二階上の視野、長襦袢の囚衣に、十六万三千余人、住吉公園のお妙、文七元話の幕間、自殺した女から、血液に巢ふ悲劇、悲哀より歓楽へ、アートオブラブ、下田歌子の印象、甘い女と辛い女、カフエーの女よ、歌劇女優の周囲、女優さん出入帳、女優さんの天下、浅草公園の女優、浅草を謳歌せよ、芸妓の存在価値、何な女が美人か、生死四人の女性

第8巻 四十男の悩み

●大正13年／新作社
四十男の悩み、禁酒してから、神経衰弱の頃、九死に一生を、酒から写真へ、東京その折々、東京の十五年、東京を謳歌す、東京に住む者、新聞人の苦惱、新聞よまい言、一記者の復命、人間味世間味、故郷の思ひ出、友人一家の死、郷里の友人へ、吉原遊郷の事、千日前と浅草、生活その日頃、或る年の記録、歳末そゞろ言

第9巻 記者懺悔 人間秘話

●大正13年／成光館出版部
新聞記者になつて二十五年目、その二十三歳から四十七歳までの彼は何をし て来たか、何を考へて来たかを綴つた書。

第10巻 人間見物

●昭和2年／騒人社書局
憂き世を外に、チヤブ屋探訪、洋妾お安さん、御隠居寮拝見、磯節名人安中、東北温泉巡り、故郷の山河に、北海道印象記、蓬家雪松の事、大阪時代追懐、雲右衛門の死、瀧田樗蔭追憶、あ、澤田撫松、カフエー十夜、食べもの行脚、縄暖簾四方山、酒興の三十年、金に無縁の記、善友悪友珍友、秋風の中より



再婚した妻八重と子どもたちと

松崎天民選集 全10巻

後藤 正人 監修・解説

第1巻 『小天地』所収作品集	定価 5,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-786-5
第2巻 人生探訪	定価 5,800 円 (税別)	ISBN978-4-87733-787-2
第3巻 社会観察 万年筆	定価 7,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-788-9
第4巻 恋と名と金と	定価 5,600 円 (税別)	ISBN978-4-87733-789-6
第5巻 漂泊の男・流転の女	定価 6,200 円 (税別)	ISBN978-4-87733-790-2
第6巻 歓楽の底より	定価 4,200 円 (税別)	ISBN978-4-87733-791-9
第7巻 女人崇拜	定価 5,800 円 (税別)	ISBN978-4-87733-792-6
第8巻 四十男の悩み	定価 8,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-793-3
第9巻 記者懺悔 人間秘話	定価 5,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-794-0
第10巻 人間見物	定価 6,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-795-7

B6判/上製クロス装 平成25年11月末日刊行

揃定価 58,600 円 (税別) ISBN978-4-87733-796-4 (セット) C3395

● クレス出版好評既刊書 ●

昇曙夢 翻訳・著作選集 全7巻

源 貴志・塚原 孝 編・解説

〈翻訳篇1〉 ロシア民話集、白夜集	定価 11,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-575-5
〈翻訳篇2〉 六人集、毒の園	定価 15,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-576-2
〈翻訳篇3〉 空気饅頭、トラスト D.E	定価 10,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-577-9
〈著作篇1〉 ろしや風土誌、赤露見たまゝの記	定価 12,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-578-6
〈著作篇2〉 革命後のロシア文学、舞台美術大観、プロレタリア劇と映画及音楽	定価 14,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-579-3
〈著作篇3〉 露国革命と社会運動、謎のロシア	定価 11,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-580-9
〈著作篇4〉 ロシア・ソヴェト文学史	定価 14,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-581-6

揃定価 87,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-582-3 (セット)

子規研究資料集成 全七巻

越後 敬子 編・解説

〈回顧録編1〉 俳諧風聞記、友人子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-629-5
〈回顧録編2〉 随攷子規居士、正岡子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-630-1
〈研究編1〉 俳人子規、正岡子規	定価 11,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-631-8
〈研究編2〉 正岡子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-632-5
〈研究編3〉 正岡子規研究、正岡子規の新研究	定価 17,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-633-2
〈作品評釈編1〉 春夏秋冬 子規俳句評釈、正岡子規	定価 13,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-634-9
〈作品評釈編2〉 子規句集講義、子規名句評釈	定価 15,000 円 (税別)	ISBN978-4-87733-635-6

揃定価 95,000 円 (税別) ISBN978-4-87733-636-3 (セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎(03)3808-1821 ㊚(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版